

## みる側の責任

和田中学校 三年 譜久嶺 菜央

今大会の東京五輪での男女比はほぼ半々となり、女性の参加率は四十八.八%、過去最高となりました。また、混合種目は前リオ五輪から倍増し、十八種目になるなど、数字上ではジェンダー平等が進められています。

五輪初のトランスジェンダー選手のローレル・ハバード選手。ハバード選手は、女子重量挙げの選手です。私は、ハバード選手をニュースで知った時、驚きましたが、すごいことだと思いました。ジェンダー平等へつながると思ったからです。しかし、この事について調べてみると、ハバード選手への批判がありました。特定の、ハバード選手を差別していたのです。まず最初に浮かんだのは、男性と女性の体格差です。この問題は、どうしても解決できないことだと思うし、なくせないと思います。それが不公平だと、批判の声があがっていました。ですが、ハバード選手という特定の人に批判をするのは間違っています。ただの誹謗中傷もありました。これらは人権を侵害していて、おかしいと思いました。しかし、どこかで男女の線引きをしなければならないし、なんらかの規制は必要だと思います。その規制をつくったことにより、トランスジェンダーの方やノンバイナリーの方が遠慮することがないようにするべきです。そのために、私達のような「みる側」が重要だと考えました。このような問題を知り、正しい知識を身につけるべきだと思います。

また、「ルッキズム報道」も大きく「みる側」に関わっています。今回の東京五輪で、大きく浮き彫りとなりました。例えば、ニュースやネット記事などで、五輪選手に対し、「可愛い」「かっこいい」「セクシー」など、容姿を中心に報道されているのを見たことがあるのではないのでしょうか。これらは、選手が不快に感じたり、「こうでないといけない」と思ってしまう可能性があります。選手本来の輝きが薄くなりそうだと思います。この問題は、「みる側」が求めすぎているのだと思います。私達は、求めすぎてはいけないし、あたりまえのことですが、相手の気持ちを考えなければいけません。

オリンピックは、世界平和を目的としています。それなのに、トランスジェンダーの方を批判したり、ルッキズム報道をし、オリンピックの目的の本質を見誤ったりするのは、大きく目的から外れています。

今回の東京五輪を通して、様々な人権課題に気づくことができ、同時に、少しずつはジェンダー平等へと向かっているのではないかと思いました。数字だけで示されるのではなく、相互理解ができる世の中となつてほしいです。

男女はどこかで線引きをしなければならないように、多様性を認める社会を

実現するには難しい面もありますが、私は本質を見違えないように、「みる側」の自覚と責任をもって行動していきたいです。